

つなげる、つながる、いいまちになる

2013 夏 号

武蔵野市 ●●●● 市民活動かわら版

発行:武蔵野市市民部市民活動推進課 制作:NPO法人モンキーマジック




最新情報はこちらでチェック!
「いいね!」してね!

<http://www.facebook.com/musashinoshiminkatsudou>

もしも、あなたが自分の近所や学校や職場など、武蔵野のどこかが大好きで、「誰かのために何かしたいな」そう思ったら、それが市民活動のはじまりです！武蔵野で学ぶ人、働く人、暮らす人、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで。このかわら版では「他人事じゃないや。何かしたいな・・・」のはじまりをお手伝いする情報をお伝えしていきます。



■■■■■■ 2013年夏号 もくじ ■■■■■■

- かわら版インタビュー第1回 邑上守正武蔵野市長 2ページ
- みんなのまちづくりイベントを実施しました! 4ページ
- 「むさしのNPOアワード(仮称)」を開催します! 7ページ
- 武蔵野市市民活動促進事業スケジュール 8ページ



「この街が大好き！」 そんな気持ちから 市民活動は生まれるのです。

「市民活動って、何？」「どんな人たちがどんなことをやっているの？」。そんな疑問にお答えする、市民活動かわら版インタビュー。毎回、市民活動を担う皆さんにお話をおうかがいします。

その第 1 回目は、邑上守正武蔵野市長。市民活動デビューなど、ご自身の体験も語っていただきました。

聞き手：NPO 法人モンキーマジック代表 小林幸一郎

デビューは玉川上水の清掃活動。 「市民活動」とは思いもしなかった。

小林 ■いきなりですが、市民活動ってどんなものでしょう？意識が高く関心があるけれども市民活動への関わり方がわからなかったり、どこで何をやっているのかも知らないという人がたくさんいそうですね。

邑上市長 ■確かにそうですね。実は私にも市民活動の経験があります。でも、始めたときは市民活動をするという意識はなかったんですよ。

結婚後、私が 20 代の頃です。妻が土日勤務だったので、ヒマだったんですね(笑)。玉川上水沿いをよく散歩しました。そこでゴミを拾っている人たちを見かけました。

その頃の玉川上水は空堀でしたが、市民が通水を復活させようという運動をやっていました。空堀の玉川上水にはゴミが投げ込まれることが多かったのですが、運動に関わる人たちが週末に清掃ボランティアをしていたのです。

ああ、こんなことをしているんだなあ、私も手伝いたいなあ。私は、生まれも育ちも武蔵野市。玉川上水が大好きで、その土堤の小さな自然を美しいと思っていました。清掃ボランティアに参加していくうちに、気がついたらその運動にも加わっていました。月に一度、むらさき橋から万助橋までの 360m を担当してい

ましたね。こんな形で始めたことが、私の市民活動デビューです。それを 5 年続けました。

この活動は、やがて別の大きな動きにつながりました。当時、玉川上水沿いの両側の道は都市計画道路として車道を拡張することになっていましたが、私たちがこれに異議を唱えました。車にとっての利便性を増すのではなく、歩行者を優先し、緑豊かな、うるおいの感じられる道づくりをしましょうと「水と緑の散歩道構想」をまとめて提案したのです。現在の「風の散歩道」はそれをもとに整備されたのですよ。

小林 ■市民活動の種は、意外と身近なところにあるのですね。清掃ボランティアは 5 年も続いたとのことですが、すごいことだと思います。その原動力は何だったのですか。

邑上市長 ■5 年続けたときは、まだ子どもがいませんでした。だからきっとヒマだったのかな(笑)。子どもが生まれてからは育児で忙しかったんですよ。

私は、市民活動は「この街が大好きだ」という気持ちから生まれるものではないかと思っています。大好きだから、この地域をよくしたい。そのために何かをしたい。そうして始めたことを継続することによって、自分自身の地域での存在感を感じるようになるのではないのでしょうか。それがさらに意識を高めて、続けようという気持ちになる。私の場合は、そうしたよい循環が

あったのだと思います。

でも、それだけではありません。私は当時、20代で男性。その頃は地域活動という言い方をしていたと思います。子育てを終えた世代の女性が地域活動の主な担い手であった時代ですが、その方たちは他の活動にも関わっていて、「今度、〇〇町でこんなことをやるからいらっしやい」と誘ってくれる。おかげでひとつの活動を通じて、さまざまな地域活動に関わりが持て、自分自身の関心やネットワークが広がった。彼女たちのような存在が、地域活動を広げ、今日の市民活動につなげてくれていると感じます。

街を知ることが、街を愛する気持ちに。 それが市民活動の種になれば・・・。

小林 ■ 私は、実感としてまだまだ市民活動のことを知らない人が多いと感じています。知らないから関心もない。関心がないから活動につながらない。そんな中、邑上市長が出会った女性たちのような存在は貴重ですね。その存在を増やしていくためのアイデアはありますか。

邑上市長 ■ これまで、幅広い世代に伝える情報発信ができていなかったからだと思います。市民活動に関心があり、実際に行動している人たちにしか届いていなかったんですよ。

今後は、「知らない」を減らす情報発信をやっていききたい。TwitterやFacebookは、有効な手段だと考えています。そうしたメディアを通して、タイムリーな情報を提供していきますよ。

もちろん、市報や季刊むさしのなど、これまでの広報誌も引き続き、発行していきます。より市民活動の現場に近く、「知らない」人にもわかりやすいものにしたいですね。

そして、今年始まったのが観光推進機構による「まち歩きツアー」です。清掃ボランティアを通して感じたことですが、ゴミ拾いをしていると、その場所のことがわかる。いろいろなものが見えてきます。

街を知ることが街を愛する気持ちにつながります。地域への関心を呼び起こし、防災や福祉をはじめ、地域に存在するさまざまな課題に気づくこともあるかもしれません。それが市民活動の種になればと思っています。

まち歩きツアーのガイドは、養成講座を修了した市民

の方が担当します。もう60名ほどいらっしやるんですよ。ツアーは毎月定期的実施しておりますので、ぜひご参加いただきたいと思います。歩いて楽しい街。それが武蔵野市のまちづくりのコンセプトでもあります。歩きながらさまざまな発見をし、それが市民同士を結び、コミュニティを形成していく。そのような循環が生まれる第一歩を、ともに踏み出しませんか。

住んでいる人。働いている人。遊びにくる人も。市民活動の裾野、広げたい。

小林 ■ 最後に、このインタビューを読んでいる皆さんにひと言メッセージをお願いします。

邑上市長 ■ これまでも、地域住民の皆さんとの関係を大切に考え、どのように連携していけるかを探ってきましたが、その中で、市民活動が対応しているニーズの多様さや、活動している方々が必ずしも武蔵野市在住ではないことにも気づきました。

昨年公表した「武蔵野市市民活動促進基本計画」においては、現在の市民活動の盛り上がりに応援し広げていくために、現状により則した形で、武蔵野市として市民活動を応援するにあたっての考え方や方向性をまとめています。

今、市民活動はより幅広い世代に、さまざまなテーマへと広がっていますが、若い世代、子育ての時期、そして子育てを終えたあと、さらにリタイア後と、それぞれの世代だからこその気づきを活かした、それぞれの市民活動との関わりがあっている。市民活動の多様さはそこから生まれ、互いの連携による新しい何かも期待できるのだと思います。たとえば、吉祥寺が大好きでよく遊びにくる人。働きにくる人。学生の皆さん。そうした人たちも含めて武蔵野市民と考えていいのではないのでしょうか。住民以外の人たちも市民活動の担い手あるいは受益者と考えれば、武蔵野市の市民活動はもっと広がる可能性がある。

市民活動に関わる人の裾野を広げ、誰もがワクワクするような市民活動のあり方を、たくさんの皆さんと一緒につくっていききたいですね。

小林 ■ ありがとうございます。

(取材:2013年5月)

みんなのまちづくりイベント*市民活動について考えるパネルディスカッション

パネルディスカッション

市民活動している人も、知らない人もみんな集まれ！

「市民活動×わたし＝未来のむさしの」開催！



市民活動って何だろう？そんな疑問について考える「みんなのまちづくりイベント」。武蔵野市で市民活動をする人、海外で活動する人、武蔵野市で働いている人など、さまざまな方をお呼びし、パネルディスカッション形式でお話をうかがいました。

基調講演として、まずファシリテーターを務めた「武蔵野市 NPO 市民活動ネットワーク」理事長の栗田充治さん(亜細亜大学国際関係学部教授)からお話をうかがいました。

市民活動は「市民の生活ボランティア革命」
■栗田さんの基調講演■市民活動って何でしょう。いきなりだと難しいので、まずはよく似ていてより身近なボランティアということから考えてみましょう。

ボランティアつまり人に言われなくても自ら進んでやる行為ですが、まず、無償でやることが多い、給与をいただくのとは別次元での行動です。また、「自分だけでなく、相手にも満足してほしい」という自己満足を超えた気持ちに支えられています。そして人への関心です。周りを見て「放っておけない」から始める活動だと思います。無関心でなく、人が抱える困難や課題と一緒に協力して解決しようとする行動です。

「助け合い」は人間が狩猟採集をして暮らしていた

時代からありました。得たものを平等に分ち合う。見知らぬ人にも分け与える。仮説によると、それは、環境変動による苦難の時代を生き延びるための知恵だったそうです。

市民活動という、何か特別なことのように感じるかもしれませんが、実は私たちの日常生活に溶け込んでいます。自分の自転車のカゴにゴミを見つけたとき、どうしますか。隣の自転車のカゴへちっちゃかり移す方がいますが、それを自分のところで差し止める。これによって何かを変えられるかもしれません。

私は市民活動を「市民によるボランタリーな問題解決行動」と考えています。日常生活で直面する問題を解決したい、と「放っておけない」気持から生じる小さな行動から仲間がつながる。それは市民のボランタリー生活革命と言えるでしょう。それが社会でインシアチブをとるようになれば、私たちの生活は、もっと変わるかもしれないのです。

講演をする栗田充治さん



■市民活動について考えるパネルディスカッション

続いて4人のパネリストをお迎えし、それぞれの立場から市民活動についてお話をうかがいました。



笹野章嘉さん
桜堤コミュニティ協議会会長
 地域のコミュニケーションづくりを担うコミセン(コミュニティセンター)のとりまとめ役として、コミセン活動を積極的に進めている。

市民活動は「人と人のつながり」

小さい頃にたくさんの近所の人たちにお世話になりました。その受けた「恩」を次につなぐ「恩送り」、つまり人との関わりを大事にすることから始まるのだと感じています。

武蔵野市にある16のコミセン。それぞれの場所で、声の大きな人でなくサイレントマジョリティと言われる子どもたち、高齢者、引きこもっている人たちの声もお聞きしたい。それが住みやすいまちづくりにつながっていけばと考えています。



平湯友子さん
子育て応援スペース
とことこ代表
 幼稚園や保育園ではまかないきれない育児のニーズに応える子育て応援スペースを、武蔵野市八幡町で運営。

市民活動は「一人ひとりの想いの形」

子どもたちが過ごすスペースの提供だけでなく、子育ての悩みを聞くのも私たちの活動です。子どもも大人も安心できるスペースをつくりたいと思っています。

お家賃を払いにくる人たちから毎月、顔を合わせるたびに相談に乗っている不動産屋さんが近所にいます。その方は「社会貢献」とは思っていない。でも地域に大切な存在です。市民活動は、小さな力が集まって形作られるのですね。



松下友香さん
NPO 法人 ACTION
国内事業担当
 フィリピンで子供たちの支援活動に参加し、楽しさを実感。NPO 法人 ACTION では、広報、経理を担当。

市民活動は「おたがいさま」

ACTION は武蔵境に事務所とアジア雑貨ショップを開いています。フィリピンで孤児院の子どもやストリートチルドレンなどの支援を行っており、その一環として海外ボランティアプログラムを日本の高校生、大学生に提供しています。

フィリピンで子どもたちの支援をするのですが、参加者はフィリピンの人々から元気もらい、高い志を持ち帰ってきます。相互に響き合う関わりが生まれるのも市民活動の魅力です。



栗原英幸さん
オッシュマンズ吉祥寺店長
 総合スポーツ専門店オッシュマンズ吉祥寺店として、まちづくりに貢献するため、定期清掃活動を展開中。

市民活動は「ご苦労さま」

NPO 法人グリーンバードと連携し、オッシュマンズ吉祥寺店で6年前から月2回、吉祥寺の街の清掃を行なっています。毎回、武蔵野市内だけでなくいろいろな地域から20名ぐらいの参加をいただきます。ゴミを拾っているとき、見ず知らずの方からいただく「ご苦労様」の声に励まされています。達成感を感じ、心がきれいになっていく気がします。リピーターもいるのは、その声の力のおかげなのかもしれません。

「市民活動について考えるパネルディスカッション」 参加者アンケートを実施しました！

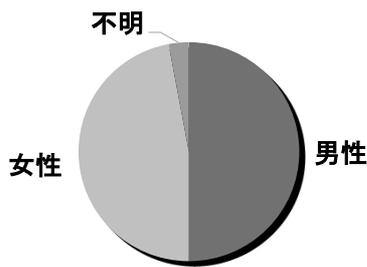


ご来場いただいたほとんどの方にアンケートにお答えいただきました。
講演とパネルディスカッションは、来場された方々の
「市民活動って？」を考えるヒントになったのでしょうか。
これを参考に、さらにみなさまの「何かしたい」におこたえできるような
イベントをしていきたいと思えます！

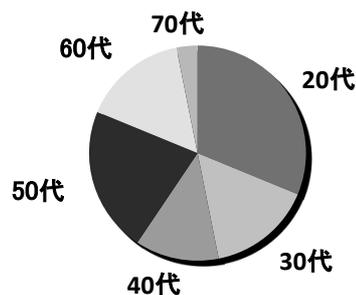
■参加いただいた方のプロフィール

若い世代から高齢の方まで、市民活動は幅広い世代の関心を集めています。
また、市外からの参加も多数、ありました。

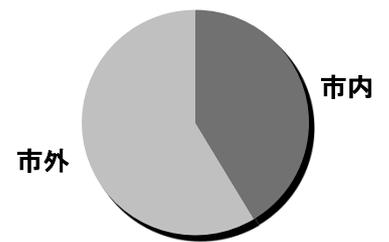
性別



年齢



お住まい

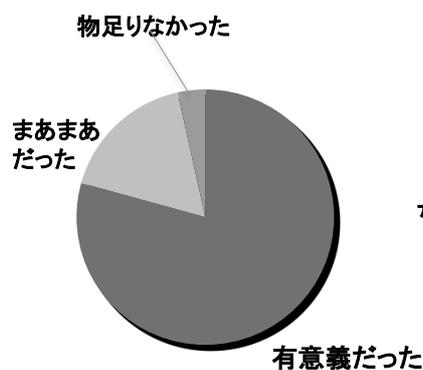


■イベントの内容について

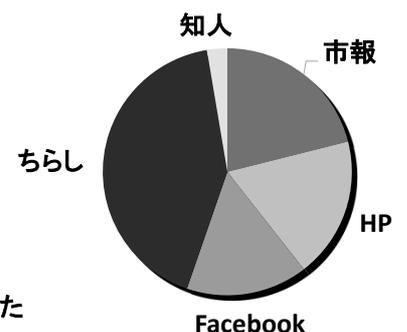
イベントのテーマなどについて、お答えいただきました。
次のような率直なご意見もいただきました。

- ◆パネリストの活動は参考になるが、「未来のむさしの」はあまり見えてこなかった。
- ◆どうすれば自分の想いが活動に結びつくかを理解した。

テーマと内容について



何でお知りになりましたか？



他にも、たくさんコメントをいただきました！その一部をご紹介します。
アンケートにお答えくださった皆さん、ありがとうございました。

- ◆市民活動の中でも、テーマにしぼったお話を聞きたい(Ex.福祉、防災、男女共同、子育て、交通...)
- ◆武蔵野市のHPのイベント欄など、活動のことをしてもらうきっかけ作りを工夫してもよいかと思う。
- ◆ゆるやかに所属し、その所属先がたくさんあることをパネラーが提案してくれたと思った。皆さん整理された発言でわかりやすかったです。
- ◆「市民活動×わたし=未来のむさしの」というタイトルは新しいです。
- ◆自身が企画制作(大道芸、サーカス、ジャグリング等のトーク、ワークショップなど)をやっており、地元で何か出来ないかと思い、まずは人の顔や雰囲気を知りたくてイントロのつもりで参加しました。
- ◆「市民活動」の定義において、あらためて自分の中で再整理できたように思う。
- ◆「市民活動」というものがぼんやりですが、とらえられたような気がします。人によって様々な活動の可能性があるもので、関わり方、とらえ方も色々だと思いました。仕事と市民活動の違いがよくわからないと個人的には思いました。
- ◆概念としていたものがはっきりとしてきたように思います。私も人のつながりが重要だと考える人なのですが、今日のことを通して、他の人にも届くように主張していきたいと思います。
- ◆多様な人材が揃ってとてもよかった。

…次のイベントでまたお会いしましょう！



「むさしのNPOアワード（仮称）」 を開催します！

2014年2月、武蔵野市内で活動する市民活動団体を対象に、
「第1回むさしのNPOアワード(仮称)」を開催します！

NPOとはNon Profit Organizationの略、日本語にすれば「非営利活動団体」の意味。つまり、ここで言う市民活動団体は法人格の有無を問うものだけではありません。

NPO法人はもちろんのこと、近所のお祭りやイベント、清掃活動など、「市民活動」はいろいろ。「むさしのNPOアワード」は、今年4月からの今年度1年間に、『どれだけ「魅力的で」「楽しく」「価値がある」活動をしたか』を市民の皆さんに発表して、みんなに投票してもらって盛り上げてしまおう！というイベントです。

「よく考えましたで賞」「とっても楽しそうで賞」「パワーあふれるで賞」など、さまざまなアワードが登場する予定。市民の方に活動をよりひろく知ってもらうきっかけにもしていただければと思います。そして、自分たちの団体以外にもさまざまな活動をする団体があることも発見できるはず！

次回(第2号)かわら版にて日時・イベント概要・受付方法など、詳細をご案内の予定です。全ての市民活動団体が集まる一日に向けて、今日から「今年は半分過ぎたけど、今年どんなことしてきたっけ？」を少しずつ振り返るきっかけにしてみてください。

これからのイベント

ご参加、
お待ちしております！

やってみよう！じぶんごとプロジェクト 第1弾

武蔵野市を再発見！わたしが街の演出家！

■日時：2013年7月6日（土）14時～16時30分

■受付：13時30分～

■参加費：無料／お申込不要です。当日、直接会場へ。

■定員：50名

■会場：ゼロワンホール

（吉祥寺駅北口より徒歩5分 武蔵野商工会館4階）

■対象：武蔵野市が好きな方、市民活動に興味のある方

■スピーカー：飯倉清太さん（NPO サプライズ代表理事）

地域のゴミ拾い活動が各地に波及し、伊豆市でNPO サプライズを設立。現在は、伊豆の未来を見据えた地域活性化に取り組み、「若者を呼び込み地域の活力を取り戻す」をテーマに、観光と清掃をミックスした「ボランツォリズム」や、若者交流施設「9izu（クイズ）」での地域連携や大学連携などのさまざまな事業を実施。その中で、若者の「つながり」と「気づき」を生み出す、地域づくりコーディネーター。

やってみよう！じぶんごとプロジェクト 第2弾

まなんで つながって まちづくり（仮題）

■日時：2013年9月29日（日）13時～15時30分

■受付：12時30分～

■参加費：無料／お申込は電話・FAX・メール・Facebookにて

■定員：50名（申込多数の場合は抽選）

■会場：武蔵野プレイス・フォーラム

（武蔵境駅南口より徒歩1分 武蔵野プレイス4階）

■対象：武蔵野市が好きな方、市民活動に興味のある方

■スピーカー：左京泰明さん（NPO 法人シブヤ大学学長）

やってみよう！じぶんごとプロジェクト 第3弾

2013年11月開催予定。詳細は、かわら版秋号に掲載します。

武蔵野NPOアワード（仮）

2014年2月開催予定。詳細は、かわら版秋号に掲載します。

●お問合せ・お申込

NPO 法人モンキーマジック：musashino@monkeymagic.or.jp

武蔵野市市民活動推進課：0422-60-1830

●Facebook「武蔵野市市民活動かわら版」でも順次情報発信中！

<http://www.facebook.com/musashinoshiminkatsudou>



武蔵野市
市民活動かわら版

武蔵野市市民活動かわら版 2013年夏号

2013年6月30日発行

市民活動かわら版1号

■発行

武蔵野市市民部市民活動推進課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

武蔵野市役所西棟7階

Tel 0422-60-1830

Fax 0422-51-2000

npo@city.musashino.lg.jp

<http://www.city.musashino.lg.jp/>

■編集・制作

特定非営利活動法人モンキーマジック

〒180-0002

東京都武蔵野市吉祥寺東町4-11-6

musashino@monkeymagic.or.jp

■制作スタッフ

野村式栄

小林幸一郎

宮永敏子

●「武蔵野市市民活動かわら版」へのご意見やご感想、紹介したい市民活動グループの情報など、お寄せください。

●「武蔵野市市民活動かわら版」は、武蔵野市とNPO法人モンキーマジックによる協働で制作しています。